

裏磐梯・伊達政宗の桧原城

天正13年(1585)政宗が会津を攻めるため築城。標高954メートルの小谷山山頂には土塁と堀で造られた大規模な山城があります。山麓の桧原湖畔には、外構と呼ぶ外堀が残っています。

桧原城のイメージ図



伊達政宗は、会津の桧原金山や豊かな領土を手中にしようと、会津侵攻を開始し、その拠点として1585年に葦名氏家臣の穴沢氏を破り、築いたのが桧原城です。後藤氏を1589年まで置いていました。山麓には、外構(そとがまえ・外堀)に囲まれた城下町がありました。城下町の入口にあたる大手口の虎口枳形(こぐちますがた)が湖畔に残っています。土塁と堀の半分は水没しています。城跡は、山頂と湖畔にそれぞれ遊歩道が整備されています。



桧原湖畔にある外構(外堀)跡と虎口枳形